

## 東近江市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

近年の社会状況の変化により、保護者にとって身近な手本となる人がいない、悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、児童・生徒の抱える課題が複雑化多様化する傾向にあり、家庭教育はますます大切な役割を担うようになってきており、学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していく必要がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てについて困り感のある保護者や、家庭教育について課題のある家庭の保護者を対象にアウトリーチ型の支援を届ける。家庭教育支援員と対象の家庭に関わる学校関係者を中心に家庭教育支援チームを作り、家庭教育支援員が保護者に寄り添う形で子どもの育ちを支援する。

### ■本年度の活動

#### （１）市内7小中学校における各家庭教育支援チームによる活動

- ・家庭教育支援チームでの情報共有
- ・家庭教育支援員による家庭訪問、相談活動、保護者支援、子育てサロンの実施

#### （２）東近江市家庭教育支援員連絡会の実施

- ・年3回の家庭教育支援員連絡会を実施
- ・年2回の家庭教育支援員・校長（担当者）合同連絡会の実施
- ・各家庭教育支援員の取組報告や情報共有を行う

#### （３）家庭教育講演会の実施

- ・保護者、学校関係者、民生委員児童委員、社会教育関係者を対象に11月29日に実施



【 家庭教育講演会 】

### ■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・家庭教育支援員とSSWが不登校児童宅に家庭訪問をして、保護者の相談対応をしたり児童へ関わったりしている。
- ・家庭教育支援員が、家庭事情により集団登校が困難な児童、生徒を家まで迎えに行き一緒に登校している。

### ■本年度の成果

家庭教育支援基盤構築事業を開始して2年目となった。家庭教育支援員の活動実績によって軌道に乗り、実施校も5校から7校に増えた。各校での活動を熱心にしていただいている。

### ■今後の課題

訪問型家庭教育支援を実施して保護者の心情、家庭事情等に関するちょっとしたきっかけでそれまで築いてきた関係が切れてしまうことがあり、どんなに技量や熱意のある家庭教育支援員でも訪問型を継続していくことは難しいと感じた。

報告書記入者（生涯学習課 指導主事）

## 保護者と学校をつなぐ アウトリーチ型家庭教育支援

東近江市	本事業開始年度	令和4年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容			A：家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数	( 1 ) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 1 ) か所
( 14 日)			D：前項 (C) の配置場所名	( 八日市西小学校 )

### ■ 活動の具体的内容

#### ○訪問型家庭教育支援の実践等

- (保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等)
- ・月に1回2時間、不登校児童宅へ家庭訪問をする。

#### ○地域人材の養成等

- ・なし

#### ○家庭教育支援チームの設置、実践等

- ・校長、SSW、家庭教育支援員、関係教職員による家庭教育支援チーム

#### ○学習講座・行事の実施等

- ・なし

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・東近江市教育委員会主催の家庭教育支援員連絡会
- ・福祉部局と連携したケース会議
- ・校内での打ち合わせ

#### ○保護者に対する情報提供等

- ・なし



【 家庭教育支援員連絡会 】

### ■ 実施に当たっての工夫

#### ○家庭訪問の工夫

家庭教育支援員とSSWの2人体制で家庭訪問をしている。相談対応が必要な保護者が複数おられるケースだが、家庭教育支援員とSSWが分担することで、保護者や児童に相談対応等できている。また2人体制にすることで、家庭教育支援員とSSWに負担が分散される。

### ■ 事業の成果

○家庭教育支援員やSSWが家庭訪問をして保護者から話を聞くことで、保護者の気持ちは良い方に向かっている。家庭訪問によって学校が気にかけているというメッセージも伝わっていると感じる。児童は以前家にこもりがちであったが、外出先が増え人とのつながりも増えた。児童は人との関わりについて前向きな気持ちが持ってきているようである。学校に放課後登校することも1度できた。そういった変化を保護者は嬉しく感じておられる。月1回の家庭訪問であるが、継続していく大切さを感じた。

### ■ 事業実施上の課題

○地域の中から家庭教育支援員に適した人材を見つけることが困難である。どの地域にも適した人材はおられるように思うが、何年か地域に関わっていないと見つけることは難しいと感じる。

報告書記入者 ( 生涯学習課 指導主事 )